

南長崎・長崎 地域

○日 時 平成 21 年 12 月 8 日 (火) 午後 7 時～午後 9 時

○会 場 長崎第三区民集会室

○区民参加者 16 名 (別記一覽)

○区側出席者

区 長	高野 之夫
教育長	三田 一則
政策経営部長	横田 勇
総務部長	小野 温代
施設管理部長	上村 彰雄
区民部長	齋藤 賢司
文化商工部長	東澤 昭
清掃環境部長	永田 謙介
保健福祉部長	大門 一幸
子ども家庭部長	吉川 彰宏
都市整備部長	増田 良勝
土木部長	亀山 勝敏

○司 会 政策経営部政策調整担当副参事 齊藤 雅人

区民参加者一覧

長崎三丁目町会	町会長	田村 壽重
南長崎四丁目町会	会長代行	中嶋 文治
目白通り二又商店会	会長	大野 清
南長崎ニコニコ商店会	会長	酒井 忠彦
トキワ荘のヒーローたちイベント実行委員会	事務局長	小出 幹雄
南長崎4・5・6丁目防災まちづくりの会	代表	梁瀬 健二郎
区民ひろば長崎運営協議会	会長	戸塚 由雄
区民ひろば富士見台運営協議会	総務	根岸 幸子
民生委員・児童委員協議会 長崎第一地区	会長	寺田 晃弘
第7地区青少年育成委員会	会長	白熊 千鶴子
社会福祉法人地球郷	理事長	姥山 寛代
元気！ながさきの会	副代表	伊藤 登
NPO法人動物を愛する会	理事長	川井 美季
長崎小学校PTA	会長	鈴木 克美
富士見台小学校PTA	会長	杉山 直樹
明豊中学校PTA	会長	前田 和加奈

主なご意見・ご要望の要旨と回答

(※以下、枠内がご意見・ご要望、枠外は区からの回答として整理しています。)

○トキワ荘関連の地域イベントの成功について

・ 記念碑ができたことにより宣伝効果があり、遠くから見に来る人が増えた。チューダーあめを買ってくれた人に聞くと、一番遠くからは福岡から来た人がいた。せっかく名前を売ってもらったので、商店街ももっと頑張らないといけない。みなさんのお知恵を拝借したい。

・ 記念碑が出来て半年で、区の協力もあり大きなイベントができた。企画展本会場には 6,000 人、大家さんの協力により実現した赤塚不二夫氏が住んでいた紫雲荘の公開には 700 人以上来場した。マンガ家が 10 人住んでいたこともあり、プロダクションの著作権のとりまとめが大変で、告知がぎりぎりまでできなかったのが残念。全国的にもっと宣伝できればよかった。

・ 長崎地区にはアトリエ村や目白文化村があった。その影響でトキワ荘にマンガ家たちが集まった。そちらとも連携できればよいと思う。

○豊島プール跡の公園整備について

・ 豊島プールの真っ黒な壁が取り払われて地域の方は大変喜んでいる。また東長崎駅にエレベーターが設置され便利になった。先をゆずりあう高齢者や小さな子を連れのお母さんたち、障害をもった方たちもみなさんにこにこして、雰囲気が変わった。議員の方も党派を超えて一緒にまちづくりをしている。今後どのようにすすめていったらよいか、省力化と率先度、スケジュールを考えている。月 1 回議員が主催する勉強会で行政の勉強をさせてもらっている。また、まちづくりに行政の職員も一緒になって参加してくれている。これからの最大の課題は人の気持ちとそれを具現する人間だと思う。

○公園利用のマナーについて

・ 長崎公園で 14 年前からラジオ体操をしている。夏だと 140~150 人位、本日も 85 人位参加、区内で最も多いのではないかと。気持ちよく体操をするため、毎朝 5 時半から世話人が清掃をしているが、公園利用者でマナーの悪い人が多い。前日の夜飲食してごみをちらかす、公園のベンチを根元から引き抜く、電灯をよじ登って壊す。犬の散歩にきて糞やブラッシングした毛をそのままにする。家庭ごみを投げ捨てていく。注意すると身の危険を感じる。比較的 10 代後半から 30 代位の若い人が多い。なんとかやめてもらう方法はないのか。新宿区・板橋区など、公園内での犬の散歩を禁止している区もある。

いつもボランティア清掃活動で、公園内をきれいに保っていただき、ありがとうございます。公園の不具合等もたびたびご連絡いただいております。

このように地域の目があるところですが、ご意見のようなことが時々あり、夏などは巡回を強化してまいりました。ベンチ損壊などの事件があったときには、その都度夜間のパトロールを入れました。また何かありましたら巡回いたします。治安面では、多くの方に様子を見ていただくのが一番良いと思われま。毎朝ラジオ体操などで、たくさんの方が利用されることで監視・抑制効果となり、安心安全なまちづくりのきっかけとなれば大変ありがたいと思っております。犬についての苦情は毎年2~3件あり、飼い主のマナーの悪さには苦慮しております。多くが放し飼い、ブラッシング、フンの不始末などです。豊島区の公園・児童遊園内は散歩のために犬を連れ込むことは可能ですが、きちんと犬をつなぎ、フンなどの始末をすることが前提です。飼い主一人ひとりのマナーの問題ではありますが、誰が見てもわかりやすい禁止看板の設置、巡回等に対応していきたいと思っております。

土木部長 亀山 勝敏

○ペットを飼う人のマナー向上について

・ペットを飼う方のマナーの向上、近隣の住民の方々と健やかに仲良く暮らしていくことが目標。ペットは教育をすれば覚えるが、飼い主のマナーの向上が難しい。飼い主は自分たちが一番いい飼い方をしていると思っているので、アドバイスもなかなか聞いてもらえない。来年度からは飼い主のための飼い方教室を開きたいと思っている。何とか受けていれてもらえるようにしていきたい。

・14年前から飼い主と犬が参加する運動会を実施している。今年は犬が111匹、人が150人程参加した。しつけなど様々な情報交換の場となっている。ここ6年程は西部区民事務所で開催している。会場が一番の問題。あいている場所があれば協力をお願いしたい。

・町会の協力を得て、狂犬病の予防接種を回覧板でお知らせしていただけないか。犬の登録をしていないこと、ノーリードで散歩することは一種の罪。そういうことも広報をしていきたい。

狂犬病の予防接種の周知につきましては、広報としま、区ホームページによる周知を行っております。また、畜犬登録をされている飼い主様に対しては郵便による個別勧奨を行っております。ご提案の町会の回覧板での周知につきましては、効果などを検証しながら検討してまいります。

池袋保健所長 村主 千明

○町会活動について

・ 役員の後継者が少ないのが悩み。人材がいないわけではないが、町会に貢献していこうという人がなかなか現れない。役員が高齢化し、85、86 歳の人はまだ役員をやっている。後継者問題についてどこの町会でも考えていると思うが、いい知恵があれば拝借したい。

・ 文化の向上に区としても力を入れているが、人間形成の上でも役立っているのではないか。モラルのある人間を育てるのが大事。区ではポイ捨て防止に力を入れているので、町会として協力していきたい。多いのはたばこの吸い殻。駅から 5 分以内が多い。電車内が禁煙のためだと思う。常識がある人がだんだん少なくなっている。区でモラルを守ろうと区で一生懸命やっても浸透していかなければ何もならない。町会も協力していきたい。

・ 道路面にポイ捨て防止ステッカーを貼っているが、規制があるのか。あまりたくさん貼ってはいけないのかを教えてください。

地域の皆さまには、日頃より清掃活動を通じて、ポイ捨てのしにくい環境づくりにご協力いただき、区といたしまして、大変心強く、感謝申し上げます。区では、こうした地域での取り組みを更に進めていくため、歩きたばこやポイ捨て防止の啓発活動をはじめ、歩行喫煙パトロールを区内各駅周辺で行っています。今後も引き続き、地域の皆様にご協力をいただきながら、街全体をきれいにしていく取り組みを推進してまいりたいと考えております。

「歩きたばこ・ポイ捨て禁止」の路上啓発シールにつきましては、ポイ捨てが多くてお困りの皆様に配付しているものです。シールを貼付する場所ですが、区道や許可を得た私道に貼ることができます。こうした啓発シールを効果的に活用すると、モラル向上のための意識啓発につながります。町会におかれまして、路上啓発シールの貼付にご協力いただける場合は、大変お手数ですが、環境課環境美化係（電話番号 3981-2690）までご一報ください。シールをお渡しする際に、枚数等のご相談をさせていただくとともに、より効果的な貼り方、貼る際の注意点なども申し添えます。

清掃環境部長 永田 謙介

○区民ひろば長崎の運営について

・ 新たな開設された「区民ひろば長崎」の今後の運営方針について、将来の方向づけを検討している。

いつも区民ひろばの運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。区民ひろば長崎は、区民ひろばの理念である、世代間交流の推進と地域コミュニティの活性化を促進するため、世代間交流事業を実施するなど館の運営に取り組んでいるところです。区民ひろば長崎は、運営協議会と連携・協働して地域の声、利用者の意向を尊重した地域の特色を活かした運営を進めていきたいと

考えております。運営協議会による区民ひろばの自主運営につきましては、先の会長会で区の方針をお示ししましたとおりでございます。今後は、個別に協議を進め、各運営協議会の意向に沿った形での自主運営を目指していきたいと考えております。区民ひろば長崎の地域には、豊島区指定無形文化財である長崎獅子舞など、地域の特色が息づいております。このような地域の遺産を通じて、世代を越えた交流が推進されていくなれば素晴らしいことと思います。区民ひろばが拠点となり、地域がさらに活性化し、活力ある地域コミュニティが形成されるよう、努めてまいります。

区民部長 齋藤 賢司

○伝統文化の承継について

・長崎一丁目には長崎神社があるが、区の施設がない。平成4年に長崎獅子舞が区の指定文化財に指定された。トキワ荘も同じだと思うが、指定された後どうするかが問題。300年以上地元の若い人が継承し、安定して伝統文化を守っていききたい。策があったら教えてほしい。今、城西学園にお手伝いしてもらっている。ご協力のほかご指導もお願いしたい。区にも協力をお願いしたい。

伝統文化の継承は、地域への愛着や誇りを育むとともに、人材の育成や個性豊かなまちづくりに繋がり、新たな文化を発展させていくうえで、とても意義深いものと考えます。ご意見にもありますように、「長崎獅子舞」については、城西大学附属城西中学・高等学校 長崎獅子舞研究部の若い方々が中心となって、すばらしい伝統を伝えています。また、「トキワ荘」については、町会や商店街が中心となって、地域の文化資源としての意義を改めて見直しながら、新たなまちづくりが始まっています。区では、平成元年より、財団法人としま未来文化財団とともに、長崎獅子舞や富士元囃子など、区の民俗芸能の継承と紹介を目的に、「民俗芸能 in としま」を開催してまいりました。今後とも、区民の皆様とともに、伝統文化の継承に積極的に取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

文化商工部長 東澤 昭

○区民ひろば富士見台について

・今回トキワ荘の企画展の第二会場としていろいろな行事を行った。地域の活性化について、大変勉強になった。運営協議会としての活動はだんだん固まってきたが、外から見るとまだ「旧ことぶきの家」というイメージが強く、小さい子や小・中学生がなかなか入れないのが悩み。子育て中のお母さん、小・中学生、高齢者の方、それぞれの立場、気持ち、利用の仕方をお互いが受け入れて、一番よいところを探り、交流の場としていきたい。

- ・区民ひろばを地域の人たちが活躍する場としたい。地域で眠っている芸術家を掘りおこし、区民ひろばで発表してもらい、集まる仲間を増やしたい。
- ・「区民ひろば」がまだまだ浸透していない。区の行事という、おしつけのイメージが強いためか。ひろばの構想は地域が必要としている場をつくるのだということを発信していかなければいけない。ぜひ区も協力してほしい。

トキワ荘の企画展におきまして、区民ひろば富士見台運営協議会の皆様には、積極的なご協力をいただきありがとうございました。この企画展では区民ひろば富士見台を利用したことがない方々も大勢訪れていただいたということで、区民ひろばのPRにもなったことと思います。また、区民ひろばの理念である、世代間交流の推進と地域コミュニティの活性化を促進するために、運営協議会の活動を通し日々その運営につきご検討いただいております。心より感謝申し上げます。ご指摘の通り、区民ひろばの認知度は、昨年秋に実施しました『「地域のつながり」に関する意識調査（標本数 5,000）』で、「知らなかった」（51.4%）が「知っていた」（46.0%）を上回っております。

現在様々な方法でPRを進めておりますが、仰せの通り「地域が必要としている場をつくる」ということを忘れずに、運営協議会の皆様とさらに魅力的な場づくりに向けて取り組んで参りたいと思います。

区民部長 齋藤 賢司

○コミュニティソーシャルワーカーの配置について

- ・21年度にできた保健福祉地域計画で、新しくコミュニティソーシャルワーカー制度ができた。現在、試行的に中央地域包括支援センターに配置されているが、早急に全部の地域包括支援センターに配置してもらいたい。区で予算がつかないなら、社会福祉協議会の予算でなんとかならないのか。ぜひ検討してほしい。

コミュニティソーシャルワーカーは、アウトリーチによる個別支援やそのコーディネート、区民や地域活動団体等のネットワークづくりを行うなど、地域福祉に対する高い専門性や豊富な経験が求められます。また、すべての地域包括支援センターに、一遍にコミュニティソーシャルワーカーを2名配置すると、全体で16名となり、年額1億2千万円程度の膨大な経費が必要となります。このように、コミュニティソーシャルワーカーを区全域に配置する場合、高度な能力が求められる人材をいかに確保するか、また、経費をどうするかという大きな課題があります。そうした点から現在は、東京都の補助を活用し社会福祉協議会より、中央包括支援センター圏域にベテラン職員2名を配置し、今年度から2年間のモデル事業として実施しています。また、東京都においても、先月「少子高齢時代にふさわしいすまいの実現に向けて」と題するPT報告書が

出され、その中で、地域全体の安心・安全を確保する仕組みを構築するため、新たに「シルバー交番（仮称）」という仕組みが東京モデルとして提案されています。今後は、これらのことを踏まえ、モデル事業の実施状況を検証するとともに、国や都の補助金を活用するなどして、23年度以降、順次配置していきたいと考えています。

保健福祉部長 大門 一幸

社会福祉協議会の自主財源は、会費、寄付、募金等で約3,500万円ですが、寄付、募金は経済、景気動向に左右されやすく、減少しています。

その使い道は、

- ①社協が実施する各種福祉サービス
- ②区内の福祉団体等への助成
- ③理事会、評議員会の開催経費、広報活動等の運営経費 などです。

この中で、地域づくりの事業費は捻出できても、各地域に配置するコミュニティソーシャルワーカー（福祉専門職）など、地域福祉推進等の人件費を賄うのは困難と考えています。

社会福祉協議会事務局長 二ノ宮 富枝

○運営協議会設立に際しての保健福祉部の関わりについて

・区民ひろばは旧児童館と旧ことぶきの家が合体してできたもの。区民ひろばの運営協議会の立ち上げを区民部がやっているが、なぜ保健福祉部が立ち会わないのか。会則を見ても「福祉」という言葉が入っていない。文化と福祉を融合させ、子どもからお年寄りまで利用していく場になっていくためには福祉の分野も大事。立ち上げ当初から保健福祉部に関わっていただきたい。

ご存知の通り、区民ひろばは平成18年度より旧児童館・旧ことぶきの家が、「区民ひろば」として転用されています。区民ひろばの理念は、世代間交流の推進と地域コミュニティの活性化であり、所管もそれぞれ「子ども家庭部」、「保健福祉部」から「区民部」に移行しております。しかしながら、ご指摘のとおり地域区民ひろばが、「文化と福祉を融合させ、子どもからお年寄りまで利用していく場」になるためには福祉、そして子育ての分野も重要であります。

現在、運営協議会の設立には「子ども家庭部」や「保健福祉部」は関わっておりませんが、区役所内部に設置されている「地域区民ひろば推進本部」では、保健福祉部・子ども家庭部を始め関係部署と連携し、検討を進めております。今後は、各所管へ地域のご意見・要望を伝え、より良いひろばづくりのため連携をさらに密にして進めて参ります。

区民部長 齋藤 賢司

○運営協議会設立に際しての保健福祉部の関わりについて

・子どもたちの安心安全を守るためには、子どもたちの顔がわかることが必要。椎名町小の児童は顔がわかるが、長崎中が統合により明豊中になったため、地域が広く把握ができず、不安である。区民ひろばの改修工事により旧児童館が空くので、そこに中学生の利用を考えてほしい。明豊中のPTA会長とも連携していきたい。東池袋ジャンプに行くと、現状の中学生の様子がわかる。ぜひ中学生の居場所を考えてほしい。

ジャンプ東池袋での手話活動など、日ごろから中高生センターにご協力をいただきましてありがとうございます。中高生センターについては、区内2か所に整備を予定しており、平成19年4月に東部地区で「ジャンプ東池袋」が開設しました。

西部地区中高生センターについては、長崎小学校でスキップ事業を実施した後の長崎第二児童館の施設を活用し開設する計画となっており、長崎小学校におけるスキップ事業は、平成22年4月からを予定していることから、現在長崎第二児童館における中高生センターとしての活用方法を検討しているところです。今後数年は大変厳しい財政状況が見込まれることもあり、まずは計画どおり西部地区中高生センターを整備し、区内2か所の整備が終了した段階で、これまでの事業を検証し、その後の展開についての検討を行っていきたいと考えております。

中高生センターは、児童館以上に地域の皆さまのお力が大切だと考えております。西部地区中高生センターが開設された際には、ジャンプ東池袋同様お力添えをいただけますと幸いです。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

子ども家庭部長 吉川 彰宏

○障害者と地域のかかわりについて

・「ゆきわりそう」をはじめ22年になる。アパート業をしている近隣の方から、アパートの住人の男性は15歳からある会社で働いているが、給料を1か月1~2万円しかもらっていない。食べることもできず、病院にもかかれず、死にそうである。どうしたらよいかと相談を受けた。ゆきわりそうで食事をさせて、お風呂に入らせ、生活保護を受けることができるようにして、早速、病院にかかることができた。

現在、建て替えている建物のひと部屋を低家賃住宅として豊島区と契約している。こういう人がまちの中でやっと生きている。人が人らしく生きていくことを実現する、その手助けをしていきたい。

・障害者はまじめで覚えたらきちんとできる人が多い。社会活動に参加することで、まちの人たちの障害者に対する見方が変わったことをありがたく思っ

いる。

・豊島区は文化都市としてやっと一歩を踏み出した。先日、音楽プログラムをやった。6回目であるが、年々参加者が増えている。文化が下の輪の中から湧いてくることを行政が応援してくれることで、信頼できるようになった。障害者がスポーツや文化をどのように取り入れることができるかを考えている。行政から助成を受けることなく参加すれば障害者は立派な消費者である。

・まちづくりの中で、原っぱをつくる活動をしている。納得できるやり方で、公園ができあがっていくのは見事。こういう方が賞をもらえたらいい。私は昨年11月に都知事賞をもらった。地域や障害者たちに本気で生きているご褒美として受けた。

・障害者乗馬を群馬でやっている。馬運車を提供するという団体があるので、ぜひ馬を東京につれてきて、馬を見たことがない人、触ったことがない人などに見せてあげたい。

・思い切った、さまざまな活動が豊島区だからこそできたと感謝している。

長年にわたる数々の文化事業を通して、障害を持った方々を支援し、大きな成果を収められてきた「ゆきわりそう」の活動に対し、改めて敬意を表します。文化芸術活動は、一人ひとりが自らの個性や創造性を発揮する素晴らしい機会となります。また、自己実現やいきがいに繋がるとともに、多くの人々との交流を生み出し、相互理解を深めていきます。区では、福祉作業所による「きをり織り展示」や「ときめき想像展（障害者美術展）」を開催し、個性あふれる作品を多くの区民の皆様にご紹介いたしております。今後も、「福祉と文化」の政策融合による取り組みを積極的に進めてまいります。

文化商工部長 東澤 昭

○区の財政について

・広報紙で区の財政状況を見た。18年度から債務の繰り上げ返済をし、97億円の負債を削減したことは評価する。老人医療会計が前年度と比べ、181億円が22億円と87%も減っている。前年度予算の立て方が悪いのか。また、今年度の予算がどこに使われるのかを知りたい。

老人保健医療制度が平成19年度末で廃止となり、20年度から新たに後期高齢者医療制度がスタートしました。このことに伴い、20年度の「老人保健医療会計」は、新制度が始まる直前の20年3月診療分の請求と、20年2月以前の請求遅れ分のみ金額となり、19年度と比較して87.7%のマイナスとなりました。21年度につきましては、当初予算額で約3,900万円であり、請求遅れ分のみ予算計上となっています。なお、診療報酬の請求は3年

間有効であるため、「老人保健医療会計」は、老人保健医療制度が廃止となつてから3年経過することになる22年度まで存続する予定です。

区民部長 齋藤 賢司

○区立学校の周年行事について

・長崎小は、芝生の検討委員会を立ち上げ検討してきたが、来年度念願かなって校庭が芝生になる。また、来年は125周年を迎える。10の周年行事のときには区から補助が出て盛大に行事ができるが、5の周年のときにも補助を出してもらって、子どもたちの記念になるようなことができるよとい。

周年行事は、学習指導要領に基づき各学校の教育課程に位置づけられる学校行事です。豊島区では、10、20・・・50周年等、10周年ごとに学校行事として実施しているもので、記念式典に要する経費について予算を措置しています。

なお、統合校においては特別に、小学校については、統合5周年該当校にも予算を措置しております。ご指摘いただいた125周年のときの補助についてですが、区の財政状況から5周年ごとに実施のための予算措置ができないことから、10周年ごとの実施及び予算措置とさせていただきます。この趣旨をご理解いただき、今後とも、PTA並びに地域の皆様におかれましては学校行事へのご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

教育総務部長 佐藤 正俊

○区のアマチュア合唱「としま未来へ」について

・今年小学校の周年行事が多く、「としま未来へ」をたくさん歌う機会があった。歌詞をよく読んでみると西部地区の歌詞が出てこない。西部地区はトキワ荘を中心に盛り上がってきた。西部地区の単語が入った「としま未来へ」を創造してほしい。

4番になるのか、第2弾になるのか。歌詞をつくったのは中野区と杉並区との方2人の歌詞を、さだまさしさんが合わせてくれたのでできたもの。4番にするとくっつけたようになるので、パート2という形になるか、知恵をしばって考えていきたい。これだけみなさんに浸透して歌ってもらえて、特に子どもたちが素直に歌ってくれている。まさに「としま未来へ」ということである。さださんにも相談しなければいけないのですがすぐにはできないが、今のご提案はしっかり受け止めていきたい。

高野区長

「としま未来へ」は、平成15年1月に区制施行70周年記念事業の一環として公募の歌詞にさだまさしさんの作曲で発表して以来、区民の皆様幅広く歌わ

れ、親しまれてまいりました。今回のご意見も踏まえながら、この歌がより一層多くの皆様に親しんでいただけるように工夫をしてまいります。

文化商工部長 東澤 昭

○長崎地区の子どもたちについて

・南長崎地区には中学校がない。この地区の子どもたちは通学に20～30分かかるため、帰りが遅い。地域が広いため、地域の方たちにも様子がわかりづらい。線路を越えるということで、情報交換もしづらく、地域の行事にも参加が少なくなっている。保護者同士の顔もわかりづらい。学校として把握する努力をしてほしい。連携を密にして、椎名町小、さくら小から明豊中に行く子どもたちがかやの外にならないよう、行政としても策を考えてほしい。

日ごろから、学校運営に多大なるご協力をいただきありがとうございます。明豊中学校は、長崎中学校、第十中学校、千早中学校の3校が統合して開設された学校であるため、学区域も比較的広くなっております。学校としても、地域全体を把握するよう努めておりますが、学校行事やPTA活動などをきっかけに保護者の方々が知り合うことも重要なことであると認識しております。在籍する子どもたちが、その住所地や出身小学校によって、仲間になりにくいことのないよう、学校はもちろんのこと、教育委員会も力を合わせて対応していきたいと思っておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

教育総務部長 佐藤 正俊

○分かりやすい施設案内等について

・昨日、旧第7出張所の前で、おなかが大きな方に第7出張所の場所を聞かれた。引越してきたばかりで転入の手続きをするためとのことであった。旧第7出張所に貼ってある西部区民事務所への案内板の印刷も消えていた。
・集会室に区の便利帳が置いてあれば電話番号などを教えてあげられた。また、便利帳の中に、豊島区全体の地図が載っていないため、区全体を把握しにくい。
・旧長崎中の跡地が気になってホームページを検索したが、難しくてたどりつけなかった。豊島区全体の地図も載っていない。素人でも検索できるように整備をお願いしたい。

早速、旧第7出張所（現、南長崎第四区民集会室）のご指摘の掲示板に「第7出張所廃止のお知らせ」をあらためて張り替え、その中に西部区民事務所及び豊島区役所の住所、電話番号を記載しました。

旧第7出張所（現、南長崎第四区民集会室）の1階入口付近のカウンターに「豊島区くらしのガイド（2009年度版）」を備えました。1冊は「閲覧用」とし、配布用の「くらしのガイド」も備えました。

区民部長 齋藤 賢司

さっそく区民集会室等で「くらしのガイド」（便利帳）が閲覧できるようにしてまいります。「豊島区案内図」につきましては、製作経費の関係から現在別冊子となっており、豊島区へ転入される方には、転入手続き時に「くらしのガイド」とセットで「豊島区案内図」をお渡ししております。今回、「くらしのガイド」を区民集会室等へ設置する際には、案内図とセットでご覧いただけるように工夫いたします。

施設名の表示につきましては、現在、各施設の廃止・開設時に新・旧の名称を並列して表示し、一定期間（おおむね 1 年程度）経過後は、新名称のみの扱いとしております。今後は、ご意見をふまえ、学校、出張所など地域のランドマークになっていた施設につきましては、廃止の情報をホームページで引き続き提供するよう改善いたします。また、地図の掲載につきましては、ご指摘のとおり、紙媒体で発行している「豊島区案内図」は、ホームページに掲載しておりません。現在、自由に利用できるデジタルマップが無いため、「豊島区案内図」の著作権を有する企業との間で掲載について経費面を含め、交渉を進めておりますので、掲載までしばらくの間お待ちください。これらのことを含め、初めて検索をされる方でも、効率よくサイト内の検索ができるよう、今後も更なる工夫を続けてまいりたいと思います。

政策経営部長 横田 勇

長崎中学校跡地の公園整備につきましては、21 年度は関係団体や公募区民等による設計検討会議を設置し設計を進めております。会議の内容については、区のホームページの「区政情報」の「会議の公開」の中に掲載しておりますが、ページ内に「長崎中学校」の記載がないため、ご指摘のとおり検索により表示されない状態でした。この度、ページ内に「長崎中学校」の検索キーワードを登録しましたので、今後は区ホームページの「サイト内検索」で「長崎中学校」を検索することにより、検索結果に上記会議のページが表示されます。

施設管理部長 上村 彰雄